

## (5) 障害のある子どもや外国人の子どもなどの読書活動の推進

### 子どもと保護者への取り組みの充実

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
94	読書活動	保育や教育の場で子どもの状況に応じて、日常的に絵本の読み聞かせや子どもと本をつなぐ取り組みを行う。	継続	○		<p>教育の場で児童生徒の状況に応じて日常的に絵本の読み聞かせや児童生徒と本をつなぐ取り組みを行う。(刀根山支援学校)</p> <p>保育室や待合室に子どもが自由に手に取ることができるように絵本棚を設置。好きなときに取り出して見ている。友だちが見ていると興味を持って見たいという様子もあり、一緒に楽しむような場面もある。</p> <p>・クラスで読んでもらった本からごっこ遊びへと発展することもあり、1冊の本をくり返し楽しむ姿もあった。クラスで気になるもの本を図書館の方に紹介してもらって、それがクラスのお気に入りの本になることもあった。</p> <p>・外来の子どもたち対象に週1回保育をしている(どんぐりクラブ)がそのときには毎回読み聞かせを行っている。月齢の小さい子が参加することが増えてきて、初めて絵本にふれるということも多々あるが、くり返しのある定番の本を楽しむことが多い。小さくても絵本を楽しめる姿から、お家でも読んでみようかなと保護者が思えるようなきっかけ作りができたらと思っている。(しいの実学園)</p> <p>設定保育の導入や給食準備中、自由あそびの時など、絵本を読む機会を多く持っている。絵本のお話が遊びへと発展するクラスもあった。子どもが絵本に興味がないと思っている保護者に子どもが興味を持ちそうな絵本の紹介をしてきた。ひきつづき保育の中に積極的に取り入れていきたい。(あゆみ学園)</p> <p>休み時間から授業が始まるまでの心と身体の切り替え時に、絵本の読み聞かせを行っている。離席者が多数いる中でも、絵本を開き、読み聞かせを始めると児童は自然に集まってきて、絵本に集中している。児童の実態から、読み聞かせで使える絵本は限定される実情がある。(豊中支援学校)</p>	刀根山支援学校 しいの実学園 あゆみ学園 豊中支援学校	

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体	
						実績	実施状況と課題		
95	「おやこでにほんご」	地域に暮らす外国人親子が安心して参加できる親子参加型日本語教室を図書館で継続して行うことで、外国人親子の読書推進、母語継承の問題など、地域課題のひとつであるマイノリティ住民の抱える問題解決につながる事業としていく。	継続	○	回数／参加人数	74回／1,048人	毎週火曜日10時から12時まで、外国人親子のための居場所づくりを行っている。毎回数組の外国人親子が日本の生活や子育て情報に触れ、おしゃべりや絵本の読み聞かせなどに参加している。子どもに手遊びや読み聞かせを行うことで、親子のコミュニケーションを深めること、普段あまり読み聞かせをしない親子には勿論、家では子どもの好みに偏りがちな親子に幅広い範囲の絵本に触れる良い機会を提供できている。日本社会で必要な日本語に触れる場でもあり、共に、母親の母語による読み聞かせは子どもたちが母親の文化に触れる場でもあり、他の親子にとっては異文化に触れ、学ぶ場にもなっている。母語および母文化の継承が、親子の断絶を防ぎ母親に活力を与え、子どもの心身の発達にも重要であるという事をふまえ、図書館の外国語の本をさらに積極的にいかしていきたい。地域で孤立している外国人親子が「おやこでにほんご」事業に出会えるよう、外部機関との連携をさらに拡げていくこと、日本語理解が不十分な親子が安心して参加できる内容づくりが課題である。また、24年度に千里図書館で「せんにりおやこでにほんご」をスタートさせるため、ボランティアが立ち上げの準備を今年度いっぱいかけて実施した。	○おかまちおやこでにほんご38回外国人大人82人、外国人子ども80人、ボランティア211人、ボランティアの子ども139人 ○しょうないおやこでにほんご36回外国人大人132人、外国人子ども74人、ボランティア大人205人、ボランティア子ども125人	○おやこでにほんごとよなか国際交流協会 読書振興課・図書館
96	市立図書館における多文化サービスの充実	外国人市民が図書館を利用するきっかけとなる事業や、地域の多文化共生を推進するための事業を図書館、とよなか国際交流協会、市民ボランティア等が連携して行う。	継続	○	おはなし会の回数／参加人数	2回／27人	岡町図書館では「おかまちおやこでにほんご」に図書館職員が入りおはなし会をした(1回子ども4人大人10人)。図書館職員がおやこでにほんごに入ることで、外国人市民への図書館の利用案内につながっている。千里図書館ではコラボまつりの中で異文化に親しむ企画としてタイのおはなしとタイ語での絵本の読み聞かせを実施した(1回子ども6人大人7人)。暮らしの課題解決に役立つサービスの一貫として、庄内図書館に多文化共生資料のコーナーを設け、資料の充実を図った。「しょうないおやこでにほんご」の活動の一環として、多言語の絵本よみかせを行っている	読書振興課・図書館 市民団体(地球ママくらぶなど) とよなか国際交流協会	
97	「おはなし会がやってきた!」	子ども文庫やおはなしグループに依頼し、日頃図書館を利用しにくい子どもたちに出前のおはなし会を行う。 [55をご参照ください。131にも掲載しています。]	継続	○	回数／参加人数	7回／319人	支援学校1校(小学部低学年・高学年、中学部1～3年生対象に5回開催)、児童発達支援センター2か所で開催。普段から移動図書館に添乗している図書館職員と毎年同じおはなし会グループによって実施することで、おはなし会に参加する子どもたちの様子を継続して見ることができている。今年度は図書館職員も演者として加わる機会が多かった。今後も各施設の教職員・保育士と連携して、事業を継続していく。	読書振興課・図書館	
98	子ども文庫での活動	子ども文庫が地域の中で本に出会える場であるということを通し、障害のある子どもや外国人の子どもも絵本やおはなしを楽しめる場となるよう、図書館やとよなか国際交流協会などと連携して活動する。	継続	○			4か月児健診では図書館からの配布物セットのなかに「こどもぶんこのしおり」を入れて、子ども文庫のPRを行っている。また、図書館との共催事業として毎年実施している「子どもと本のまつり」では、多言語によるおはなし会を行い、すべての子どもたちがおはなしや読書を楽しむことができるよう事業を展開している。文庫では個々の利用者に合った、きめ細かな対応ができるように、他の団体と連携を取りながら活動している。とよなか国際交流協会との連携は、今年度は実施できなかったが、次年度以降は継続した取り組みをしたい。	○豊子連 読書振興課・図書館 とよなか国際交流協会	

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
99	絵本講座の開催	絵本の講座やおはなし会の中で保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取り組みを行う。 [6、127をご参照ください。]	継続	○	回数／人数	45回／1,669人	今年度も子育て支援センターや社会福祉協議会を通じ、多くの子育てサロン・サークルから出前講座の依頼があった。おもに近隣の図書館のこども室担当者が出向き、絵本についての話や、絵本の読み聞かせなどを行い、地域の中で本と親しむ機会としている。蛭池図書館では幼稚園でも出前講座を行った。東豊中図書館は東豊中子育て支援センターと共催で絵本講座を開催している。	読書振興課・図書館
100	絵本講座の開催	外国人保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取り組みを行う。	継続	○	回数／人数	1回／25人	外国人保護者と子どもに読み聞かせの楽しさを感じてもらい取り組みとして、図書館職員を招いてボランティア対象の読み聞かせ講座を実施した。	とよなか国際交流協会 おやこでにほんご 読書振興課・図書館
101	図書館見学会の実施および保護者への図書館利用の案内	児童発達支援センターや支援学校の子どもと保護者に対して図書館見学会を行う。またその際に障害のある子どもの保護者や障害のある保護者が子どもと一緒に図書館を利用しやすいように、利用の方法など図書館のサービスについて詳しく案内し、同時に保護者の声を聞く機会を定期的に持つ。	継続	○	実施回数／人数	2回／96人	11/15(火)にしいの実学園の児童を対象に高川図書館にて図書館見学会を実施。おはなし会のあと、フロアで直接本を選んでもらい、貸出を行った。普段巡回している動く図書館とは規模の違う蔵書をゆったりとしたスペースで親子でゆっくり見てもらうことができた。 また11/25(金)にはあゆみ学園の児童を対象に野畑図書館にて図書館見学会を実施。おはなし会のあと、フロアで直接本を選んでもらい、貸出を行った。月末休館日を利用して行ったため、他の利用者に気兼ねすることなくゆっくりと見学していただけた。	○読書振興課・図書館 児童発達支援センター(あゆみ学園、しいの実学園)
102	図書館見学会	外国人の子どもや保護者、その支援に関わる協力者に対して図書館見学会を行う。	継続	○	実施回数／人数	2回／20人	「おかまちおやこでにほんご」に図書館職員が出向き、絵本の読み聞かせと図書館の利用や利用者カードの登録について案内した。6月(大人10人、子ども4人)と12月(大人4人子ども2人)に実施。	○読書振興課・図書館 とよなか国際交流協会 市民団体(地球ママくらぶなど)
103	動く図書館による施設サービスの充実	動く図書館が児童発達支援センターや支援学校、保育所を巡回して、子どもや教職員が直接選んだ本を貸出する。動く図書館の巡回について、教職員や保護者の意見に対応し、各施設の読書環境の整備を支援する。	継続	○	動く施設図書館／で貸出回数	10か所／18,480冊	約4週間に1回、各施設を巡回して貸出を実施。子どもが直接本を選ぶとともに、教職員の保育用資料や保護者向けの資料も貸出している。巡回が定着しており、貸出冊数は増加。個別の要望については巡回時に聞き取りができています。前年度の課題であった交流の場について、今年度は児童発達支援センター2か所で聞き取り調査を行うことができた。今後、このような場を定期的に持ち、さらに他の施設にも拡げることが課題である。 ○施設内訳、支援学校2か所、児童発達支援センター2か所、保育所6か所。	読書振興課・図書館
104	小児科病棟でのおはなし会の実施	市立豊中病院とおはなしボランティア(おはなしたまてばこ)、市立図書館が連携し、小児科病棟でのおはなし会を行う。	継続	○	おはなし会の回数	46回	非感染ルームとプレイルームそして病室での読み聞かせ、と活動の場面が広がり楽しみにしていただいているようだ。対象年齢が幅広く、人数も事前に把握できないので対応を工夫している。	○おはなしたまてばこ 市立豊中病院 読書振興課・図書館

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
105	「図書館へようこそ」の周知	「図書館へようこそ」(バリアフリー宣言)を周知するとともに、ハード、ソフトの両面について、図書館利用の障害を除去するよう取り組む。 〔121にも掲載しています〕	継続	○			各図書館に「図書館へようこそ」ポスターを掲示。職員は昨年度作成した「お探しの資料は見つかりましたか？」等の文言の書かれたワッペンを引き続き身につけ、館内で利用者に声をかけてもらいやすいよう取り組みを継続している。出前講座に出向いた時にも、図書館へようこそその精神を伝えPRしている。	読書振興課・図書館

子どもの本や読書に関する情報提供

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
106	絵本などの情報提供	図書館のホームページやメールマガジン、ケーブルテレビなど多様なメディアで本の紹介などを行う。 〔5、137にも掲載しています。〕	継続	○			テーマごとに資料を集め市内の図書館を巡回展示する企画で、「こどもの人権」をテーマにした資料の特集を23年9月から展示し、図書館HPで紹介している。22年度の巡回展示では「パパ力を鍛えよう」と題して、父親向けの成人書に加え、お父さんと楽しめる絵本や子どもの本を含む特集を展示し、HPで過去の企画展示として見る事ができる。	読書振興課・図書館
107	図書館のPR	渡日外国人児童生徒の相談窓口、とよなか国際交流協会などで、多言語の図書館利用案内を配布する	継続	○			「とよなか子ども読書マップ」を活用して情報提供を実施した。今後は幅広く周知するために多言語案内をさらに活用しセンター利用者に案内するよう心掛けたい。(とよなか国際交流協会) 市役所で転入の手続きをされる方や渡日外国人・帰国児童生徒の保護者にマップを配布し活用してもらえよう、担当部署に働きかけていく。(読書振興課・図書館)	とよなか国際交流協会 読書振興課・図書館 市民課 人権教育室

読書環境の整備

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
108	市立図書館の外国語資料の充実	関係団体と協力し、外国人市民の意見やニーズを把握しながら、市立図書館の外国語資料を購入や寄贈によって充実するとともに、岡町図書館の「世界のこどもの本の部屋」をより利用しやすいものにする。 [145にも掲載しています。]	継続	○	新規受入冊数／蔵書冊数	989冊 ／ 10,537冊	23年度「世界のこどもの本の部屋」の資料として118冊新規購入した。おやこでほんごのスタッフや、市内の小学校に転入してきた外国からの生徒への資料というニーズに応え、ハンゲルや中国語の資料や、小学生向けの読みものを中心に選書した。 市立図書館の「暮らしの課題解決サービス」の一貫として多文化共生資料のコーナーを設け、中国、韓国、フィリピン、台湾、スペイン、ベトナム、ブラジルの言語の資料を871冊新規購入した。この取組みでは、子ども向けから大人向けまで幅広い資料の充実が図られた(庄内図書館にコーナー設置)。	読書振興課・図書館
109	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実させる。 [147、148をご参照ください。]	継続	○			図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実させる。(刀根山支援学校)  動く図書館による団体貸し出し、リサイクル図書、寄贈図書などにより、図書の充実をはかることができる。保育や訓練に使いたい本を前もって図書館に連絡して持ってきてもらうことも増えている。(しいの実学園)  大型絵本などなかなか購入できない本を動く図書館で借りることで、いろいろな絵本の楽しみを提供できた。各クラスから借りたい本の希望も出してもらって、1週間くらい前から予約のリストをFAXしている。「スマイル」でも「はじまりの会」や「おわりの会」で絵本を1対1で読むときに活用し、とても喜んでる姿が見られる。また、リサイクル図書を活用することで、園バスやクラスに置く本も増え、楽しめている。(あゆみ学園)  月に1度、「動く図書館」に来てもらうことで、児童生徒はたくさんの本やCD、紙芝居の中から実際に目で見て、手で触れて、好きな絵本を選択する機会が持てることは大変ありがたい。本校の児童生徒にとって「慣れ親しんでいる特定の絵本」の存在はとても大切であり、移動図書館利用の利点の半面、年間を通じて児童生徒のそばに置いておけるという点や破損や紛失に気を使わずに利用できるという点では、多くの教員が持ち出して絵本を購入しているという実情がある。(豊中支援学校)	刀根山支援学校 しいの実学園 あゆみ学園 豊中支援学校
110	資料の充実	図書館が児童発達支援センターや支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映させる。 [144にも掲載しています。]	継続	○	施設数	4か所	選書に反映されるよう、園で活用したい図書名を図書館へ情報提供している。  施設や学校で活用される資料のニーズについて、巡回時に情報交換し、移動図書館車に積み込む資料に反映することで、施設や学校の読書環境の整備につとめている。また、23年度「子どもと本をつなぐ地域交流会 パート2」で報告を行うために事務局と移動図書館担当者が実施した通園施設への聞き取り調査でも、必要な資料等の情報収集を行う事ができた。23年度は布絵本を9冊新規購入した。動く図書館の担当が聞き取った資料のニーズに沿って、小さいサイズの簡易な布の絵本を購入できた。(岡町図書館)	児童発達支援センター 支援学校 読書振興課・図書館

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
111	外国語資料の整備	英語以外の外国語資料について、蔵書検索や利用を促進できるように研究を行う。また市立図書館ととよなか国際交流協会が資料の情報を共有し、分担収集をするなど、ともに蔵書の充実を進める。 [146にも掲載しています。]	継続	○			23年度は、「世界の子どもの本の部屋」の資料の整備として日本語タイトルがある資料については、日本語タイトルシールを貼付する作業を実施した。また年度途中からは、英語以外の外国語資料のデータ整備を進めている。ハングルや中国語などアジア諸言語の資料については、日本語の書名を元に検索できるよう書誌データの作成を進めている。(市立図書館) 言語的マイノリティにおかれる外国につながる子どもたちが、乳幼児期から母語や絵本と出会うために19年度に「多文化子ども読書推進活動」を立ち上げ、外国語絵本を整備し、外国につながる子どもたちの参加する事業(多文化子ども保育にこここ、子ども母語、学習支援サンプレイス)でえほんを使った活動を取り入れ、保護者には貸出サービスを紹介している。地域の子育て支援イベント「みんなあつまれわくわくランド」などでも外国語絵本を展示し、PRを図った。(とよなか国際交流協会)	読書振興課・図書館とよなか国際交流協会
112	団体貸出のPR	関係機関・団体に向けて団体貸出の制度をPRし、冊数や期間など各施設の状況に応じて団体貸出を行う。 [12、43、63をご参照ください。]	継続	○			23年度「子どもと本をつなぐ地域交流会」パート2で報告を行うために事務局と移動図書館担当者が実施した通園施設への聞き取り調査において、リクエストサービスの案内を再度実施した。	読書振興課・図書館
113	資料の並べ方やサイン(本棚や館内の表示)の見直し	利用者が図書館職員に相談しやすいような雰囲気づくりに努める。資料を利用しやすいよう、サイン(本棚や館内の表示)や資料の並べ方を見直す。	継続	○			各図書館に「図書館へようこそ」ポスターの掲示を継続中。「お探しの資料は見つかりましたか？」のワッペン着用期間終了後も、継続してワッペンをつけている職員も多く、館内で声をかけてもらいやすいよう取組みを継続している。	読書振興課・図書館
114	多言語の利用案内やサイン(本棚や館内の表示)の作成	子ども向けの利用案内やサイン(本棚や館内の表示)などを多言語表記にする。	継続	○			市立図書館では18年度にこども読書活動推進連絡協議会ワーキンググループ会議で作成したアジア諸言語の簡易な目録リストをカウンター側に常備し、誰でもすぐに手にとってみられるようにした。 引き続き、外国人利用者がわかりやすい表示などを検討していきたい。(とよなか国際交流協会)	読書振興課・図書館とよなか国際交流協会 市民団体(しょうないREK)
115	入院中の子どもの読書環境整備	市立豊中病院と市立図書館が連携し、患者用図書室などを充実させ、入院中の子どもの読書環境を整備する。	継続	○	病院への団体貸出の冊数	12冊	例年通り、小児病棟の担当者の希望を聞いて購入した資料を長期貸出した。	○市立豊中病院 読書振興課・図書館

## 子ども読書活動におけるネットワークづくりと情報交流の推進

◆〈実施計画の取り組み〉(8ページ)をご参照ください。

## 子ども読書活動ボランティアや市民活動団体への支援の充実

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
116	ボランティア活動への支援	録音図書、点字図書や拡大写本など、障害のある子どもに有効なメディアを研究し、製作に携わるボランティアを育成・支援する。	継続	○	／講座の参加人数	2回／28人	音訳ボランティアのフォローアップ講座を実施し、制作にかかわるボランティアを支援した。	○読書振興課・図書館 ひまわり教育センター
117	おはなしボランティアへの支援	障害のある子どもや入院中の子ども、外国人の子どもに向けておはなし会を行うボランティアに対して市立図書館が図書資料や情報などを提供する。	継続	○			読み聞かせに使用する絵本や紙芝居などの資料を提供した。	読書振興課・図書館

## 子どもに関わる大人への啓発と研修

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
118	市民向けの啓発事業の実施	市民に向けて、障害のある子どもに対して理解を求めるとり組みや啓発を行う。	継続	□	参加人数／数		今年度は実施せず。	読書振興課・図書館 児童発達支援センター 支援学校
119	職員の研修	障害のある子どもや外国人の子どもを取り巻く状況など、多様な子どもの情報を共有できるように教職員の研修を行う。	継続	○	職員研修の参加人数		あゆみ、しいの実の両園で、親子クラスについて、互いの保育の公開と勉強会を行い、それぞれの子どものおかれている状況、親子関係についてなどを学び合っている。(年4回) 今年度は図書館の職員としいの実の職員で話し合いをする機会をもてた。しいの実の子どもや保護者の状況を知ってもらえたり、動く図書館での選書に役立ててもらったり、子どもたちが選びやすいような工夫などもしてもらえた。(しいの実学園)	児童発達支援センター 読書振興課・図書館
120	情報交流と研修	図書館や各施設で行う研修の情報を共有し、研修の機会を広げる。 [72、157をご参照ください。]	継続	○			8月に豊中人権まちづくりセンターで開催された人権研修主任推進員・推進員等合同研修「多文化共生のまちづくりを進めるために」や、11月に国立国会図書館関西館で実施された「障害者サービス担当職員向け講座」、大阪市立中央図書館での大阪公共図書館研修会「障害者サービスをめぐる最近の動向と新たな展開」に職員が参加し、職員間で情報を共有した。	読書振興課・図書館